

# 山形県SDGs推進本部会議

日時：令和3年7月27日(火)11:00～

会場：県庁502会議室

## 次 第

1 開 会

2 本部長あいさつ

3 議 事

本県におけるSDGsの推進について

4 閉 会

### 【配布資料】

資料1 「山形県SDGs推進本部」の設置について

資料2 持続可能な「やまがた」に向けて ～SDGs×山形～

資料3 SDGsに関連する主な取組み【令和3年度】

資料4 県における主な取組み（トピック）

(1) カーボンニュートラルの実現に向けた取組み

(2) SDGsに貢献する「やまがた森林ノミクス」

(3) ジョージ・ヤマガタ氏 presents オンラインセミナー

「SDGs～具体的にどうする？」概要

## 「山形県SDGs推進本部」の設置について

### 1 設置の趣旨

#### (1) 現状・背景

- 2015(平成27)年に国際連合で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」は、**人口減少や地域経済の縮小等の地域課題の解決、持続可能な地域社会や地方創生の実現に資するものである。**
- **第4次山形県総合発展計画**では、「**県民一人ひとりの希望を実現して、真の豊かさ、生きがい・幸せを実感でき、持続的に発展する**」県づくりを目指していくこととしており、その考え方は**SDGsの理念と一致する。**
- 本県は**SDGsが掲げる目標を従来から実践してきた土地柄**であり、昨年来、「**ゼロカーボンやまがた2050**」宣言や、**SDGs推進に向けた共同宣言などの取組みも推進**している。こうした取組みを積極的に発信するとともに、県内各分野・各地域でSDGsを推進することで、ポストコロナを展望しつつ、**県勢発展につなげていくことが重要である。**

#### (2) 対応方針

- 庁内での情報共有と連携強化、県の取組みの対外的な発信強化に向け、「**山形県SDGs推進本部**」を設置し、全庁一丸となってSDGs達成に向けた取組みを展開する。  
(本県ならではの資源を活用し、**各種施策の推進を通じて、SDGsの実現に貢献していく。**)
- これにより、**山形県全体で進める県民運動として、県民・企業・市町村など様々な主体の取組みや連携を一層促進する。**

### 2 本部の概要

- 構成 本部長：知事 副本部長：副知事 本部員：各部局長等
- 設置要綱 別紙のとおり
- 協議内容
  - ①SDGsの視点からの県施策の取組状況
  - ②SDGsに係る主な取組み(トピック等)
  - ③政府、他都道府県、県内自治体・民間の動向等の情報共有
  - ④その他(SDGs関連事業の庁内調整など)
- 本部会議の開催 令和3年度：7月27日(火)

## 山形県SDG s 推進本部設置要綱

### (設置)

第1条 国際連合が採択した「持続可能な開発目標」(SDG s)の達成に向け、県施策の総合的推進を図るため、山形県SDG s 推進本部(以下「本部」という。)を設置する。

### (本部の所掌事項)

第2条 本部の所掌事項は、次のとおりとする。

- (1) SDG sの理念の普及、理解の促進に関すること。
- (2) SDG sの達成に向けた取組みの推進に関すること。
- (3) その他第1条の目的を達成するために必要なこと。

### (組織)

第3条 本部に本部長、副本部長及び本部員を置き、それぞれ別表に掲げる職にある者をもって充てる。

- 2 本部長は、本部の事務を統括し、本部を代表する。
- 3 副本部長は、本部長を補佐し、本部長に事故あるときは、その職務を代理する。

### (運営等)

第4条 本部の会議は、本部長が招集する。

- 2 本部長は、必要があると認める場合は、別表に掲げる職にある者以外の者を会議に出席させることができる。

### (庶務)

第5条 本部の庶務は、みらい企画創造部企画調整課において処理する。

### (その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、本部の運営及び活動に必要な事項については、本部長が別に定める。

### 附 則

#### (施行期日)

この要綱は、令和3年7月27日から施行する。

## 別表

	職 名
本部長	知事
副本部長	副知事
本部員	総務部長
	みらい企画創造部長
	防災くらし安心部長
	環境エネルギー部長
	しあわせ子育て応援部長
	健康福祉部長
	産業労働部長
	観光文化スポーツ部長
	農林水産部長
	県土整備部長
	会計管理者
	企業管理者
	病院事業管理者
	県議会事務局長
	教育長
	警察本部長
	監査委員事務局長
	人事委員会事務局長
	労働委員会事務局長
	村山総合支庁長
	最上総合支庁長
置賜総合支庁長	
庄内総合支庁長	
東京事務所長	

## ◆SDGsとは

SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) は、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のあるよりよい社会の実現に向け、2015(平成27)年の国連サミットで採択された、世界共通の目標

### SDGsの特徴

- 2030年までに達成すべき17のゴールと169のターゲット、約230の指標例で構成。
- 実施のための5つの主要な原則が掲げられている。

### 地方自治体におけるSDGsの推進

- 国内にSDGsを浸透させるためには、地方自治体及び地域で活動するステークホルダーによる積極的な取り組みが不可欠。
- 地方は人口減少、地域経済の縮小等の課題を抱えており、SDGs達成へ向けた取り組みは、こうした地域課題の解決に資するものであり、SDGsを原動力とした地方創生を推進することが期待。

※内閣府「SDGs実施指針改定版」より

**普遍性** 先進国を含め、**全ての国が行動**

**包摂性** 人間の安全保障の理念を反映し「**誰一人取り残さない**」

**参画型** **全てのステークホルダーが役割を**

**統合性** 社会・経済・環境に**統合的に取り組む**

**透明性** **定期的にフォローアップ**

### 【地方自治体に期待される主な役割】

- ・自治体内部の推進体制づくり
- ・各種計画へのSDGsの要素の反映
- ・SDGsの取り組みの的確な把握
- ・情報発信による普及・啓発
- ・様々なステークホルダーとの連携

## ◆多様な主体との連携

### SDGsの推進に向けた共同宣言

〔2020(R2).8、山形県・山形大学・山形新聞社〕

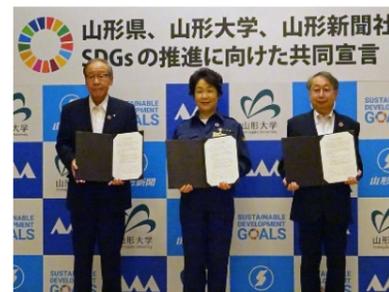
- SDGsの考え方に基づいて、人と自然との調和のもとで県民誰もが真の豊かさと幸せを実感できる山形県づくりを目指し、互いに連携して行動していくことを宣言。

### 【行動・実践の共同指針の内容】

- (1)それぞれの役割を果たすとともに、互いに協力・連携し、活動を加速する
- (2)それぞれの事業をSDGsの実現に結びつく取り組みとして磨き上げ、多くの県民の主体的な参画を求める
- (3)県内外に積極的に発信し、理解・普及と実践の深化に努める

### 「やまがたSDGs推進ネットワーク」の開設〔2020(R2).8〕

- 上記の共同宣言に基づき、情報発信・交流の場となるプラットフォームとして、フェイスブック上に開設。(山形新聞、山形大学が共同して管理運営)
- SDGsの理念に賛同する県内の企業や行政、教育・研究機関、各種団体等による活動の紹介など多様な情報を発信する。



吉村知事、山形大学・玉手学長、山形新聞社・寒河江社長による共同宣言への署名



「やまがたSDGs推進ネットワーク」フェイスブック

## ◆県取組状況

### 第4次山形県総合発展計画への位置づけ〔2020(R2).3策定〕

- 計画の基本目標の考え方である、「県民一人ひとりの希望を実現して、真の豊かさ、生きがい・幸せを実感でき、持続的に発展する」共生社会、包摂性のある社会、「少子高齢化を伴う人口減少を乗り越える」社会を創っていくことは、SDGsの理念と一致。
  - 本県ならではの特性・資源を評価・活用し、**計画に掲げる各種施策の推進を通して、SDGsの実現に貢献**していく。
- ⇒ 各政策とSDGsの17のゴールとの関連性を計画に明示



各政策とSDGsとの関連性を整理 (第4次山形県総合発展計画より)

### 山形県SDGs推進本部の設置〔2021(R3).7〕

- 知事をトップに、全庁一丸となってSDGsの達成に向けた取組みを展開する。また、県民・企業・市町村など様々な主体の取組みや連携を促進する。

### 県民向けの普及・啓発等の実施 <事業の一例>

- ・若者向けSDGs等環境学習会〔環境エネルギー部、2020(R2)～〕  
民間企業や山形大学と連携し、高校生等を対象としたSDGs(環境分野)、地球温暖化、気候変動適応等に関する環境学習会を開催。
- ・「ジョージ・ヤマガタ氏」オンラインセミナー〔2021(R3).7開催〕  
『SDGs～具体的にどうする?～』と題し、県内自治体の首長、有識者、企業経営者等による事例紹介やディスカッションの様子を配信。



県内高校での環境学習会 (出典:リコージヤパン(株)ホームページ)



オンラインセミナーの様子

## ◆県内市町村、民間の取組状況

### 市町村における主な取組み(「SDGs未来都市」への選定)

- 経済・社会・環境の三側面における新たな価値創出を通じた持続可能な開発の実現を目指す地域を政府が選定するもの。県内ではこれまでに3市町が選定済み。

#### 飯豊町〔2018(H30)選定〕

バイオマス資源の利活用プロジェクトや「飯豊電池バレー構想」の推進等により、農山村における持続可能な地域モデルの構築を目指す。



#### 鶴岡市〔2020(R2)選定〕

森・食・農の文化や先端生命科学等の資源を基盤に、産業経済の自律的好循環、市民が健康や生きがい、暮らしやすさを実感するまちを創出する。



#### 米沢市〔2021(R3)選定〕

上杉鷹山も注力した「人材育成」を中心に掲げ、産業振興、米沢ブランド戦略、健康長寿、ゼロカーボンシティ等に市民総参加で取り組む。



### 企業・団体における主な取組み <取組みの一例>

(事例参照:山形新聞ほか)

- 企業等では、経営資源の活用や事業遂行を通じて、SDGs推進と地域の発展に貢献している。

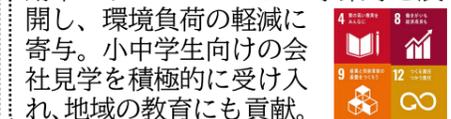
#### (株)やまがた新電力

「おらだの電力」でやまがた創生に寄与することを目指し、県内産の再生可能エネルギーの調達と県内企業・自治体への電力供給等を推進。



#### (株)永田プロダクツ

自動車の解体・分別リサイクル部品の国内外への販売、再生した自動車のリース・レンタル事業等を開発し、環境負荷の軽減に寄与。小中学生向けの会社見学を積極的に受け入れ、地域の教育にも貢献。



#### (株)大商金山牧場

加工販売までの一貫生産体制と循環型農業の実践を通じて、「元氣」な社会づくりに貢献。再エネ発電、食育活動、障がい者を含む多様な労働者のサポートを推進。



●：新規 ◎：拡充 ○：継続

**1 貧困をなくそう**  
貧困

- ひとり親家庭に対する面会交流支援・家賃支援や資格取得の応援
- ◎高校生を対象とした授業料以外の教育費負担を軽減する支援の拡充
- 生活困窮者の就労準備、家計改善支援の実施
- 低所得世帯を対象とした冬季の灯油購入費等支援を行う市町村への助成

**2 飢餓をゼロに**  
飢餓

- 地域農業を支える多様な担い手の確保・育成に向けた取組みへのオーダーメイド型補助
- 衛星画像解析を活用した広域での「つや姫」生育診断など農林業のデジタル化
- ◎「つや姫」の評価の更なる向上と「雪若丸」の認知度向上に向けた戦略的な取組みの展開
- 東北農林専門職大学(仮称)の設置に向けた基本計画、基本・実施設計等

**3 すべての人に健康と福祉を**  
保健

- 新型コロナワクチン接種体制の整備、「山形県PCR自主検査センター」の設置・運用
- ◎健康長寿日本一の実現に向けた県民総参加の健康づくりの推進
- 山大医学部との連携による、がんの発症や生活習慣病の予防に資する調査研究の実施等
- 公認心理師による発達検査など発達障がい児の支援体制強化と初診待機期間の短縮

**4 質の高い教育をみんなに**  
教育

- デジタル授業を効果的に実施するための県立高校におけるICT機器整備等
- ◎県立高校の校舎等整備
- ◎私立高等学校等及び専門学校の授業料等軽減支援の拡充
- ◎スクールサポートスタッフや部活動指導員の配置等による教員の働き方改革の推進

**5 ジェンダー平等を実現しよう**  
ジェンダー

- 男性の育児休業取得の機運醸成による男性の家庭参画の促進
- 女性がいそいそと暮らし働ける環境づくり等に向けた「女性活躍前進懇話会」の開催
- 出産費用軽減のための「出産支援給付金」の創設
- 0～2歳児の保育料の無償化に向けた段階的負担軽減

**6 安全な水とトイレを世界中に**  
水・衛生

- 施設の耐震化・老朽化対策等への支援や広域連携の推進等による水道事業の基盤強化
- 最上川などの公共用水域や地下水の水質汚濁状況のモニタリング等の実施
- 「里の名水・やまがた百選」の情報発信やアドバイザー派遣等による保全活動の促進

**7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに**  
エネルギー

- ◎家庭・事業所への再エネ設備や災害対応力向上を図る蓄電池・V2H導入への支援
- ◎洋上風力発電の導入に向けた地域の合意形成等の取組みの促進
- 再エネ熱利用設備から排出される未利用熱の有効活用の促進
- 新たな水力発電所(小国町明沢川地点)の建設に係る実施設計等

**8 働きがいも経済成長も**  
経済成長と雇用

- ポストコロナに向けた中小企業のデジタル化などイノベーション創出支援
- 創業や新ビジネス創出をワンストップで支援する「創業支援センター(仮称)」の創設
- 出羽百観音に代表される精神文化等の観光資源を活用した観光交流の促進
- 女性非正規雇用労働者の賃金引上げ及び正社員化促進による女性の賃金向上

**9 産業と技術革新の基盤をつくろう**  
インフラ、産業、イノベーション

- 高速道路等の整備促進、追加インターチェンジ(IC)やICアクセス道路の事業推進
- 国際化を含む庄内空港の機能強化及び庄内空港ファンクラブ(仮称)設立への支援
- 福島～米沢間トンネルの早期事業化、フル規格新幹線の早期実現に向けた取組み
- 橋梁、舗装、トンネルなど道路施設における予防保全型維持管理の推進

**10 人や国の不平等をなくそう**  
不平等

- 外国人が安心して暮らせる環境づくり等に向けた日本語ボランティアの育成研修等の実施
- 社会参加の拡大に向けた特別支援学校における生徒の就労活動の充実
- 障がいによる差別解消と誰もが共に生きる社会の実現を目指す県民会議の開催

**11 住み続けられるまちづくりを**  
持続可能な都市

- 「くらすべ山形」等によるオール山形での移住定住・人材確保策の一体的な展開
- ワーケーション体験等モデル事業の実施による関係人口の創出
- ◎住環境の向上や人口減少対策に向けた移住・定住者向け住宅リフォーム支援
- ◎災害に強い強靱な県土づくりに向けた防災・減災、国土強靱化対策の実施

**12 つくる責任 つかう責任**  
持続可能な生産と消費

- 食品ロスの削減を図るテイクアウトボックス実証実験の実施
- 循環型産業の販路拡大に向けたリサイクル認定製品展示会の開催
- 3Rの研究開発や事業化調査、廃棄物の排出抑制等のための施設・設備整備への支援
- やまがた環境展やワークショップ等の開催による3Rを推進する人材の育成

**13 気候変動に具体的な対策を**  
気候変動

- カーボンニュートラルの実現に向けた推進会議の設置、公用車への電気自動車の導入
- 気候変動適応に係る情報拠点となる「山形県気候変動適応センター」の設置・運営
- 若者向け環境SDGsワークショップの開催
- 若者環境パートナーと連携した適応策の情報発信

**14 海の豊かさを守ろう**  
海洋資源

- 漁業就業希望者の就業準備への支援や所得補償による担い手の確保・育成、経営安定化
- 漁業者のチャレンジを応援するオーダーメイド型支援を通じた水産業の振興
- ボランティア等による海岸漂着物や河川ごみ等の回収と発生抑制の啓発
- 海岸漂着物の発生抑制対策をより効果的に実施するための漂着物組成調査の実施

**15 陸の豊かさを守ろう**  
陸上資源

- ドローン・AI技術を活用した鳥獣被害対策の実施
- みどり環境税を活用した市町村、地域住民、NPO等による森づくり活動等への支援
- 森林資源の循環利用の推進に向けた再生林への支援
- ◎森林クラウドシステムの運用や高性能林業機械のトライアル導入支援

**16 平和と公正をすべての人に**  
平和

- ◎「やまがた性暴力被害者サポートセンター」の運営体制の充実(夜間休日の緊急対応)
- 児童虐待に係る予防、早期発見・対応、アフターケアに至る切れ目のない対策の推進
- 消費生活相談体制の充実と消費者教育・啓発のための出前講座等の実施
- サイバー犯罪の捜査能力向上、捜査用資機材の整備

**17 パートナリシップで目標を達成しよう**  
実施手段

- テレワークや副業・兼業に必要なデジタル技術習得に向けたデジタル人材育成
- ◎コンテスト開催を通じた行政保有の統計情報等のオープンデータ利活用の促進
- 買い物支援、離島振興、ICT利活用など県と市町村が連携したプロジェクトの展開
- 「やまがた社会貢献基金」を活用したNPO等の社会貢献活動の支援



➤ SDGs (Sustainable Development Goals) は、2015年に国連で採択され、世界が合意した17の「持続可能な開発目標」  
➤ 第4次山形県総合発展計画の基本目標の考え方は、SDGsの理念と軌を一にするものであり、同計画を推進することにより、SDGs実現に貢献していく

- ◆ カーボンニュートラルの実現に向け、第4次山形県環境計画（R3～R12）では、SDGsの考え方を取り入れながら、環境・経済・社会の連鎖性に着目し、環境課題に対する施策の方向性を示しています。また、計画の推進にあたっては、県民、事業者、行政など様々な主体の参画と連携を重視していきます。
- ◆ 今後の具体的な取組みについては、「カーボンニュートルやまがた推進会議」の中で、有識者、市町村、一般県民から助言・提案をいただき、アクションプランとして取りまとめるとともに、県民一丸となってカーボンニュートラルを推進していく機運を醸成します。



## 【施策の柱1】持続可能な社会をけん引する人づくりと県民総ぐるみによる運動の展開

- 環境問題を「自分ごと」と捉え、意識改革・行動変容を促す**県民総ぐるみの新たな県民運動**の展開
- **若者環境パートナー**と連携したSNSによる情報発信等協働の取組み、若者を対象とした**SDGs学習会**の開催



## 【施策の柱2】気候変動対策による環境と成長の好循環（グリーン成長）の実現

- 省エネ・再エネによる**排出削減対策**と森林整備等による**吸収源対策**の総合的な推進  
 <家庭> 建築・住宅団体等と連携したやまがた健康住宅や**ZEH**等省エネ住宅の普及  
 <事業所> デジタル社会に対応した**環境配慮型の事業運営**の普及、省エネ・再エネ設備の導入促進  
 <自動車> 電気自動車（**EV**）等の次世代自動車の導入推進、「置き配」等の推奨
- **J-クレジット制度**を活用したCO<sub>2</sub>削減価値の見える化と、都市圏の企業との取引による県民への還元
- **気候変動適応センター**の設置（環境科学研究センター）による気候変動「適応策」の推進



## 【施策の柱3】再生可能エネルギーの導入拡大による地域の活性化

- 漁業や地域と協調した**洋上風力発電**など大規模事業の県内展開の促進
- (株)やまがた新電力のノウハウを活用した**地元密着型の地域新電力会社**の創出など**地産地消**の推進
- **地球温暖化対策**としての再生可能エネルギーの導入拡大・利用促進
- **V2H**等の新技術・仕組みを踏まえた**EV**等を活用した**災害対応力（レジリエンス）**の強化



## 【施策の柱4】3Rの推進による循環型社会の構築

- 県民運動等による**プラスチック削減**に向けたライフスタイル変革の促進
- 市町村や関係機関との連携による**食品ロス**の削減



## 【施策の柱5】生物多様性を守り、活かす自然共生社会の構築

- 計画的な造林や間伐等の森林整備など**多様で健全な森林づくり**の推進、および**県民参加の森づくり**の推進
- 地元住民による「やまがた百名山」の環境整備の支援、環境資産の保全意識の醸成



## 【施策の柱6】良好な大気・水環境の確保と次世代への継承

- 大気・水・土壌環境の保全と活用（「**日本一空気のきれいな県**」の維持・活用）
- 森林等の水源涵養機能維持のため、**水資源保全地域の指定の拡大**





# SDGsに貢献する「やまがた森林ノミクス」

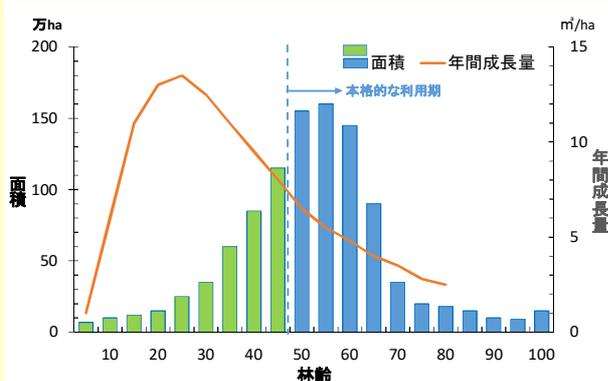
気候変動対策（計画的な間伐や再造林、木材の建築利用による炭素貯蔵）など、やまがた森林ノミクスの取組みは、SDGsの様々な目標達成に大きく寄与。

## 【気候変動対策※としての取組み】

※目標 13 気候変動に  
具体的な対策を

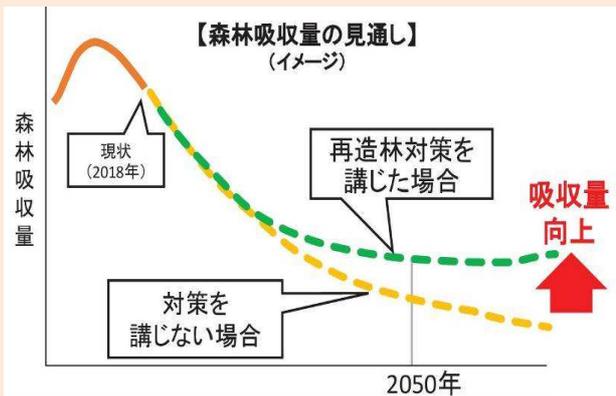


### 1 人工林の林齢構成と年間成長量



- ・戦後植林された人工林を中心として、本格的な利用期を迎えている
- ・高齢級化に伴い 1ha 当たりの成長量(吸収量)は減少

### 2 森林吸収量の見通し（イメージ）



- ・森林吸収量は減少するが、間伐に加え再造林対策を講じることで、将来の吸収量を安定的に確保

### 3 再造林の推進



#### ◎主な再造林推進施策

- ・民間基金と合わせ、再造林経費の100%を支援
- ・森林所有者への皆伐・再造林の働きかけの推進（地上レーザレンタル支援等）
- ・低コスト再造林技術の確立（低密度植栽、下刈り回数の削減等）

### 4 林業の効率化



#### ◎主な高性能林業機械の導入推進施策

- ・国の補助事業による導入支援
- ・森林環境譲与税を活用したトライアル使用の支援



【ハーベスタ】  
伐倒・枝払・玉切と集積まで実施

### やまがた森林ノミクス



### 5 木材製品による炭素貯蔵

#### ○森林等吸収源のルール（2013年～）

- ・伐採された国産の木材中の炭素は、木材製品が廃棄された時点で排出量を計上 ⇒木材利用のインセンティブ

〈県内企業の技術で建築された木造高層ビル(仙台市)〉



## ジョージ・ヤマガタ氏 presents オンラインセミナー 7/8(木)「SDGs～具体的にどうする?～」概要

### ■本オンラインセミナーの趣旨

介護・医療、芸術、釣りなど、様々な切り口で山形の魅力をお届けし、山形と日本全国、さらには世界の人と人、企業と企業をつなぎ、イノベーション、新結合を生み出すお手伝いをしていく。(令和3年度：毎週木曜日に開催)

### ■7月8日の開催概要

- (1) テーマ 「SDGs～具体的にどうする?～」  
… SDGsの取組拡大に向け、県内における取組みを紹介・発信し、SDGs実現への貢献に向けて共に考える。
- (2) 日時 2021(令和3)年7月8日(木) 18:00～19:30
- (3) 形式 ZOOMによるオンラインミーティング(パネルディスカッション)
- (4) 参加者
  - ・パネリスト 栗山恭直氏(山形大学 理学部 教授)  
後藤幸平氏(飯豊町長)  
佐藤昌幸氏(株大商金山牧場 取締役管理本部長)  
永田則男氏(株永田プロダクツ 代表取締役社長)  
山縣弘忠氏(東北芸術工科大学 デザイン工学部 准教授)
  - ・モデレーター 小林剛也(山形県みらい企画創造部長)

### ■主な御意見

- 今の子供は学校でSDGsを学び、理解が進んでいる。今後は、SDGsにどう関わっているかで企業を評価し、就職先を選ぶようになっていくのではないか。
- より良い社会づくりに向けては、科学的な知識や理解力、リスクや選択肢を自分で考えて判断する力を身に付けていく必要がある。
- SDGsの推進にあたっては、地域資源の活用、また、産学官金言など様々なプレイヤーや地域間の連携が重要である。
- 社会問題には、間口を広げ、敷居を下げて、ユーモアとポジティブをもって取り組むことがコツである。

